

新旧オーナー必見! 86&BRZアベンジャーズ発動

2021年12月9日発行・発売(3・6・9・12月の毎10日発行・発売)  
第14巻1号通巻96号  
ザッカー | 86&BRZマガジン

# XACAR 86 & BRZ magazine

# 034

2022 Winter  
[1月号]

## 新型デモカー大集合

注目パーツを吟味する

新型BRZで1300km  
ロングランしてわかった○と×

NEW BRZ  
解体新書  
[インバネ]



## 新型 GR86 全方位チェック!

FSWでタイムアタック!  
新旧86の速さの違い

Auto Messe Web  
<https://www.automesseweb.jp>



「チャイルドシートって、フルバケットシートのようなカタチをしているじゃないですか。それって、疲労も少ないし安全だという証拠だと思うんです。今のところ僕のGR86には、フルバケットシートを装着するつもりでいて、最初に交換するのはシートです」と言い切った。この言葉には、クルマからのインフォメーションを逃すことなく感じとりたい、それには、スポーツシートを装着する必要があるということが込められていたように思う。

「チャイルドシートって、フルバケットシートのようなカタチをしているじゃないですか。それって、疲労も少ないし安全だという証拠だと思うんです。今のところ僕のGR86には、フルバケットシートを装着するつもりでいて、最初に交換するのはシートです」と言い切った。この言葉には、クルマからのインフォメーションを逃すことなく感じとりたい、それには、スポーツシートを装着する必要があるということが込められていたように思う。

僕にとって理想のシート  
満点に近い評価を下した



### GIASⅢ

ガイアスⅢ 21万4500~27万5000円

ブリッドのセミバケットシートのフラッグシップモデル「ガイアスⅢ」が16年ぶりにフルモデルチェンジを行った。フルバケットシートに近い高剛性と、リクライニング機構を備えた夢のようなスポーツシートだ



レーシングドライバー  
佐々木雅弘さん

「新しく登場したガイアスⅢは、高剛性で高強度。それでいてリクライニング機構も備わっているのが理想のスポーツシートと言えますね」

より自分らしいGR86にしていけるために  
佐々木選手が最初選んだのはBRIDEだった

**BRIDE** GR86 & BRZ CUSTOMIZE

ブリッド ☎052-689-2611  
<https://bride-jp.com/>

写真●増田貴広(本誌)







ブリッドの高瀬社長と、ガイアスⅢのポジションについて打ち合わせをする佐々木選手。ベストなポジションをつくるために入念だ

りはないのですが、フルバケットシートに匹敵する剛性とホールド性をもち、リクライニング機構を備えた。ガイアスⅢがブリッドから登場したので、これを装着することに決めました」という佐々木選手。

もちろん佐々木選手はG R 86のノーマルシートを否定しているというわけではない。純正シートのことでも普通に走行するのであれば、とても良くできたシートだとコメントしていた。ただし自分の理想を追求するのであれば、ガイアスⅢのような剛性とホールド性が高いシートを装着するということのようなのだ。

取材時は、まさに佐々木選手のG R 86が納車されたタイミング。そして宣言通り、すぐさまシート交換がスタートした。実際に装着してみると「もう少し目線を下げたい」とブリッドの高瀬社長にリクエストする場面があった。じつはクッションも従来品と異なっているためだ。クッションは、モールドウレタ

ン（金型の中で発泡成型）を採用。高密度に成型される事から、乗り心地や耐久性が高まっている反面、潰れにくいのだ。現状、腿部クッションはロッククッションの設定があるため、着座位置に拘る佐々木選手としては座部もロッククッションが欲しいとリクエストしたのだ。高瀬社長は「オプションパーツとして、座部ロッククッションのウレタンパットを追加設定して対応します」と回答した。「バケットシートなみの剛性を持ちながら、リクライニング機構を持ったガイアスⅢ。これって最高じゃないですか。このシートで走行すると、サイドGの高さをすごく感じます。シートが全然よれません。また、ペダルを踏んだときに前のモデルだと背もたれが若干しなる感じがあったのが、ガイアスⅢになってしなくなりました。腰のホールドもとてもいいです。まさに理想のシートに出会えた感じがします」と佐々木選手。満点と言えるほどの高評価だ。



ガイアスⅢは6点式シートベルトが装着できる、座面裏にベルトホールがある。本格的なスポーツ走行にも耐えうる性能の証だ



ワンタッチで角度調整が可能な新設計のリクライニング機構を搭載。バックラッシュ(遊び)は極力少なく剛性が高い

新設計の高剛性スチールフレームに加え、新たに開発されたモノコックシェルは、剛性と強度が従来品より飛躍的に向上している



「クッションの高さ調整すると、僕にとってベストなシートポジションをつくることができました」と佐々木選手



腿部は、スタンダードクッション(右)とロッククッション(左)の2パターンを設定。このときのセッティングでは、佐々木選手はロッククッションをチョイスした

ガイアスⅢを装着しての佐々木選手のシートポジション。標準の座部クッションでは、若干高さを感じる事。より好みに近づけるためにも、座部ロッククッションのウレタンパットの追加設定が待ち遠しい

